

水稻技術情報 NO-10

平成30年6月28日
JA 営農支援課

『生育は遅れ気味も回復の兆し』

1. 水稻の生育状況(あきたこまち)

前回6/18の調査日以降、気温は高めであったものの強風日等もあり「あきたこまち」の葉齢からみた生育は、依然として平年比では『5～6日程度の遅れ』、『草丈短め』となっておりますが、上位葉の葉姿や葉色等からみた生育は多くの圃場で回復傾向となってきております。また、その他の品種も概ね同様の傾向となっておりますので、各自の圃場状態を見回り、以下を参考に今後の管理を行なってください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月27日)

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)		SPAD	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	32.7	41.5	289	391	8.0	9.2	43.1	45.5
(慣行)	31.4		241		7.7		41.2	
(側条ペ-ス等)	33.8		331		8.2		44.7	
前年比	101%		116%		±0.0 葉		101%	
平年比	79%		74%		-1.3 葉		95%	
たつこもち	33.0	43.2	339	406	8.1	9.1	43.2	45.7
きぬのはだ	34.2	43.0	438	417	8.8	9.4	43.5	42.6
ときめきもち	29.0	41.4	295	409	7.9	9.1	41.2	43.9

2. 今後の技術対応

1) 中干し

多くの圃場で生育が遅れており、株が十分に開帳しきれていない圃場も見受けられますが、田植え時に側条肥料を施用している圃場や、もち品種等では、過剰分けつ気味の圃場も見られておりますので、圃場を確認しながら葉齢9葉を目安に中干し・溝切りに入ってください。

【中干しの効果】: ①無効茎の抑制 ②根の健全化 ③田面の硬化 等

2) 倒伏対策(出穂25～10日前)

中干し後でも「葉色が濃い」「茎数過剰」等により倒伏が心配される圃場は、つぎの薬剤で対応してください。

ロミカ粒剤1成分 [2～3kg/10a 散布後5日間は湛水状態]

3) 病虫害防除

【葉いもち病】

オリゼメート等の防除をされていない圃場では、7月中旬又は初発時に「コラトップ粒剤」を散布する等の対策をしてください。

【アワヨトウ】

小麦圃場で発生が見られておりますので、水稻技術情報No9を参考に対応してください。

【イナゴ】

本年はイナゴの発生が多く見受けられますが、稲の食害が見られる場合は、畦畔沿いを主体につぎの薬剤で防除してください。

トレボン粉剤DL: 3kg/10a、トレボン乳剤: 1000倍～2000倍

※ 圃場でばか苗が見えた場合の抜取りにご協力ください。